平成二十九年九月十日　北海道旭川（北海道第二）偉光会館開所に向けて

神　示

神魂が宿るにふさわしい地環境を手にする今今日

信者は皆　「神の心」に近づく努力がほしい

なぜ　神は　偉光会館を地域に現し　皆信者に託すのか

心で生きる人間は運命実体

神魂に触れる体験なくして　運命が導く人生は歩みきれない

欲心が実体を下げ

「人生の真実」　精神世界が見えずに　人生を閉じる

神が与えし力運命を生かせず　迷い　悩む　人々の心姿が　今現代なのである

「開所」を控え　神の心に近づく課題は一つ

――家族で「教え」を学び

「真理」に生きる家庭を　家族で築く努力を重ねる――

この思いが深まるほど　信者の心は悟りを深め

神の手の中守られ　「生きる」人信者の姿が見えてくる

心精神の世界に生きて　人人間は皆　悔いなき人生を歩み抜ける

令和元年七月二十八日　北海道旭川(北海道第二)偉光会館開所に向けて

神　示

「光」が通る心の姿を教えん

「教え」を学び　「真理」を悟り　我が「心」を見詰めて生きる

自然と心は安定し　不安に迷う思いは消えてゆく

この時　運命に信者の心は導かれ　悪しき実体は抑えられている

今　信者が目指し　求める心は　「真実の愛」

「教え」に生きるほど　人間は　奉仕の思いが引き出され

無償の愛に「心」包まれる

我が「運命」を　社会に奉仕して生活する心の姿に

「希望の光」が通る

「希望の光」を歩む人の心は　「神の心」に近づき

互いの運命を重ね　補い合って　社会を「正道」へと導く

信者に申す

「教え」に生きて　「心」を神に預ける努力をする

ますます社会の姿が見えて　「心」に気付き　悟りを深めてゆく

知識と徳に優れ　多くの人を神へとつなぐ　手本の人と成ってゆく

令和二年四月二十六日　北海道第二（旭川）偉光会館開所式

神　示

「神魂」宿りて　この地の姿(実体)は大きく引き上げられる
この真実を　信者は「奇跡」　神の守りを実感し
「運命」に重なる人生を手にできる
この地が大きく変わる祝(祝日)いの日
信者一人一人が　信者の誇りを深める時
「教え」を深く学び　「人生」に生かす心を神に誓う
家族で偉光会館に出入(で い)りを重ね
「真理」で触れ合う家庭を　神に求める
この誓いと願いが神(神魂)に届いて　信者の心(人生)は大きく変わる
「教え」を家族で学ぶほど　会話が増えて
「愛」と「信頼」と「期待」で
心つながる家庭となってゆく
人間は　会話のある家庭に身を置くことで
「運命」は磨かれ　奉仕に生きる心(実体)の人(人間)となってゆく
神(神魂)の守りの中　神の「教え」を学び
社会を「正道」へと導く人(存在)を目指せよ
この思(信念)いが　信者の人生を
喜び多く　生きがいあふれた日々(にちにち)へと　心(運命実体)をいざなう